

第13章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禪寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い今後徐々に再開発が進むと思われる。

本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行なわれた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2010年3月現在36地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

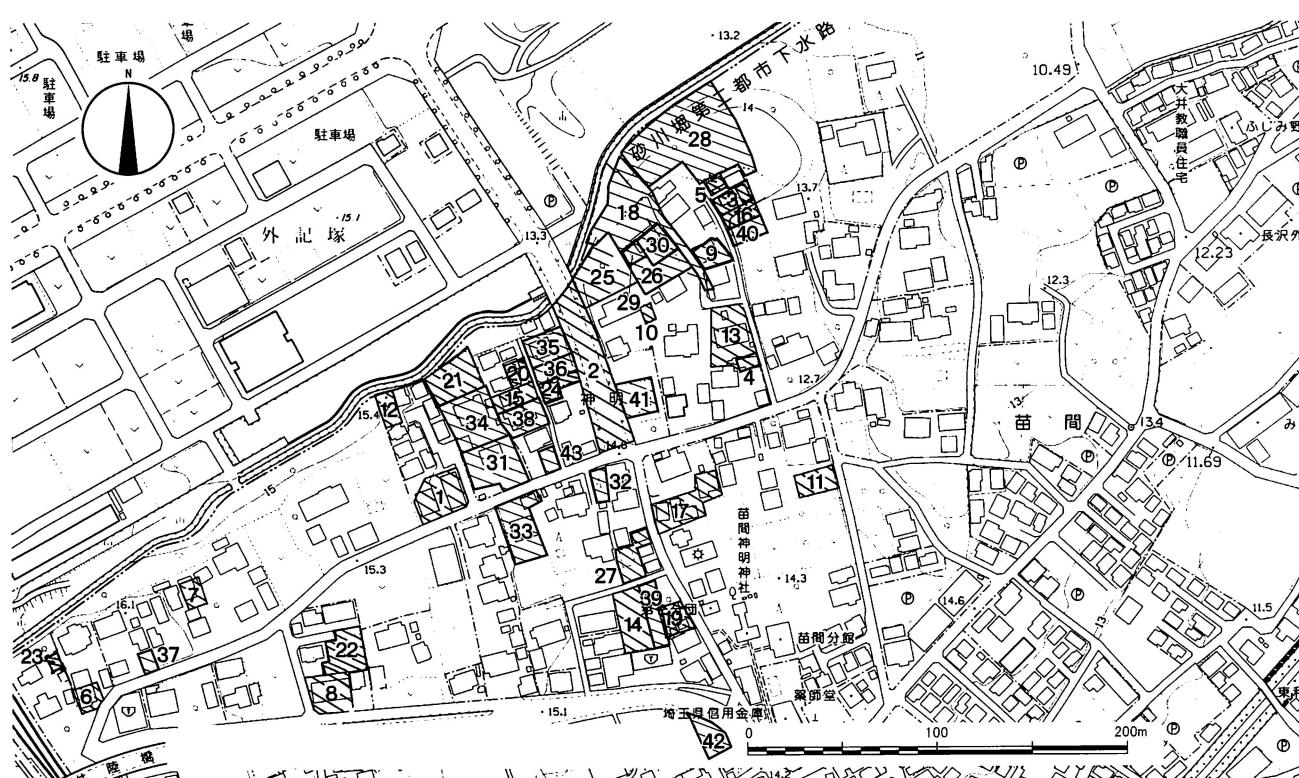
これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

II 神明後遺跡第33地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅及び個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年3月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年4月25日から同年5月16日まで行なった。幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土プランを検出した。遺構の性格を確認するためさらに一部を掘り下げ確認したところ、縄文時代の落とし穴、近世以降の井戸、土坑、ピット、溝等であった。確認面まで80cmを測るが、建築による遺構への影響がないため工事立会いとした。写真撮影・平板測量による全測図・遺構図面作成等記録保存を行ない、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



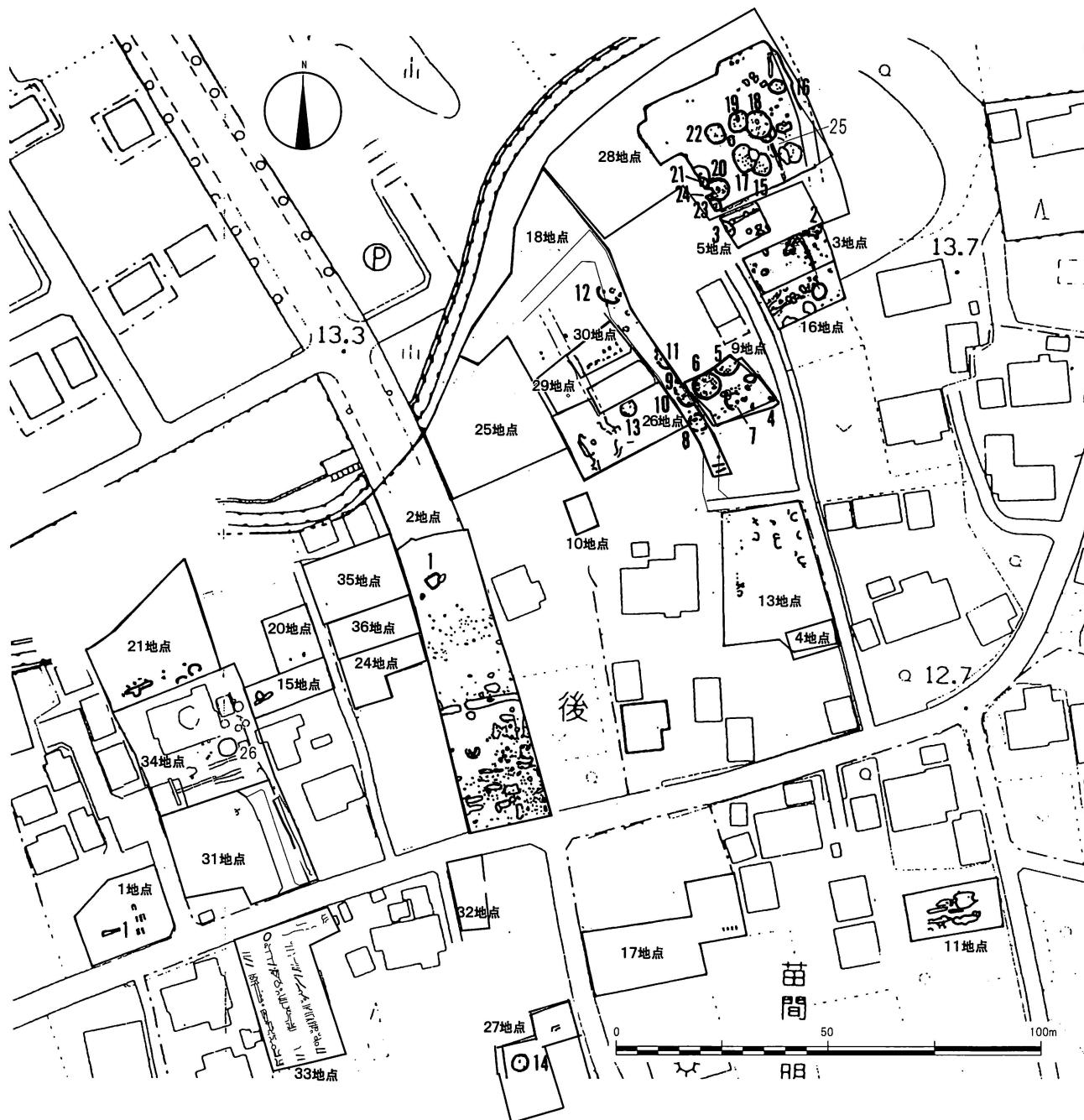
第96図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第47表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6～11	615	共同住宅	遺構無し、平安時代須恵器片、陶器片	町内遺跡群Ⅲ
2	苗間 295-2,299-3	1993.5.12～20	1,688	道路築造	落とし穴1、平安住居跡1(H1号)、縄文土坑1、中・近世掘建柱建物跡、地下式壙1、井戸、堀	町内遺跡群Ⅲ
3	苗間 309-12	(1995.3.24～29) 1995.4.3～5.19	200	分譲住宅	縄文住居跡1(2号)、伏甌2、埋甌1、土坑2、ピット34他	町内遺跡群VI
4	苗間 302	(1996.6.17～19)	703	物置	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群VI
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15) 1997.3.15～4.2	80	個人住宅	縄文住居跡1(3号)、土坑5、溝、他 縄文中期後半～後期初頭	町内遺跡群VI
6	苗間 255,227-2	(1997.9.29～30)	150	個人住宅	土坑1、土器片・石器片	町内遺跡群VII
7	苗間 260	(1998.6.1～2)	1,460	個人住宅	近世地下室1	町内遺跡群VIII
8	苗間 235-1	(1998.7.13～24)	458	共同住宅	集石土坑1、土坑2、ピット40、柵列1、溝	町内遺跡群VIII
9	苗間 310-1	(1998.9.1～11) 1998.9.14～10.15	219	共同住宅	縄文住居跡4、集石土坑1、落とし穴1、縄文土坑2、 近世土坑1、井戸2、地下室1、ピット33	町内遺跡群VIII
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群IX
11	苗間 366	(1999.10.21) 1999.10.22～26	239	個人住宅	土坑17、ピット7	町内遺跡群IX
12	苗間 282-2,5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
13	苗間 302-1	(2000.4.17～19)	694	個人住宅	土坑12、ピット	町内遺跡群X
14	苗間 252-2	(2000.8.18～23)	357	共同住宅	土坑1、近世掘建柱建物跡1、溝2、井戸1、柵列、ピット38	町内遺跡群X
15	苗間 293-15	(2001.4.11) 2001.4.12～13	163	個人住宅	集石土坑1(阿玉台期)	町内遺跡群X I
16	苗間 309-14	(2001.7.23～24) 2001.7.25～9.3	165	個人住宅	縄文屋外理縄4、土坑13、溝2、地下式壙1、 地下室1、竪穴状遺構1、ピット38	町内遺跡群X I
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町内遺跡群X I
18	苗間 304-1,303-6	(2002.5.15～25) 2002.5.27～6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居跡5(8～12号)、土坑、 古代・中世堀跡	町内遺跡群X II
19	苗間 264-4	(2002.9.18～20)	216	個人住宅	根切溝、溝4	町内遺跡群X II
20	苗間 293-11	(2003.1.14～15)	143	個人住宅	中・近世溝2、ピット2	町内遺跡群X II
21	苗間 283-1	(2003.1.10～30)	674	土地造成	ピット7、井戸1、近世地下室2、土坑1	町内遺跡群X II
22	苗間 235-2,3	(2003.7.8～29)	430	分譲住宅	井戸1、土坑10、ピット38、江戸後期陶磁器	町内遺跡群X II
23	苗間 253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室1、錢貨	町内遺跡群X II
24	苗間神明後 293-4,10	(2004.9.30～10.7)	148	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群X II
25	苗間 295-1	(2004.9.30～10.7)	660	店舗併用住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群X II
26	苗間神明後 301,303- 3,303-4,303-5,3,304-1,303-7	(2005.6.1～8) 2005.6.15～30	689	分譲住宅	縄文中期住居跡1(13号) 中世地下式壙、 近世土坑5、溝	調査会報告 18集
27	苗間 248-2,249-1	2005.7.20～25 2005.7.27～29	385	共同住宅	縄文中期住居跡1(14号)	調査会報告 18集
28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8～31) 2006.6.29～10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居跡11(15～25号)、集石23、土坑5、落とし穴1、炉穴3、ピット、溝4、古代・中世堀跡1	市内遺跡3
29	苗間神明後 303-21,24	(2006.5.8～11) 2006.5.12～19	136	個人住宅	ピット1、古代・中世堀跡1	市内遺跡3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8～19) 2006.12.14～19	101	個人住宅	ピット12	市内遺跡3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3～7)	499	個人住宅	土坑2	市内遺跡4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	近・現代搅乱	市内遺跡4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	298	個人住宅	落とし穴1、中世以降溝6、井戸2、土坑38、ピット16	市内遺跡6
33b	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	357	分譲住宅		市内遺跡6
34	苗間字神明後 283- 1,284-1 の一部	(2008.4.30～5.15) 2008.5.16～28	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡1(26号)、落とし穴1、集石3、ピット	市内遺跡5
35	苗間字神明後 293番6,20	(2008.8.1)	247	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	ピット1	市内遺跡6
37	苗間 258-1 の一部	(2009.4.13) 2009.4.15～30	120	個人住宅	縄文後期住居跡1	未報告
38	苗間字神明後 293-1,292-13	(2009.7.6～14)	265	個人住宅	中近世溝1	未報告
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5～12) 2009.8.24～9.1	378	共同住宅	中～近世溝2、ピット28、落とし穴1	未報告
40	苗間 309-1	(2009.11.9～18) 2009.12.18～2010.1.15	156	個人住宅	縄文集石土坑1、中世地下式坑2、井戸1、竪穴状遺構1、 土坑9	未報告
41	苗間字神明後 298-1,299-1 の各一部	(2010.5.25～31) 2010.6.15～7.21	486	共同住宅	縄文時代集石土坑1、中世の掘立柱建物跡、方形竪穴状遺構16、溝5、木炭窯1、ピット214、本調査(140m ²)	未報告
42	苗間神明前 380-3	(2010.6.1～2)	312	宅地造成	遺構・遺物無し(隣接地)	未報告
43	苗間 292-14	(2010.10.20～22) 2010.10.22	107	個人住宅	中世～近世期ピット7、本調査	未報告

第48表 神明後遺跡住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査率	平面形()は推定	規模	か			埋	抵	壁	溝	備考	時期	文献
				地床	埋設	石甌							
1号	10%	(円形)	不明	未掘			○	中世土器の下	加曾利 E II	大井町史資料編I			
2号	65%	(円形)	不明×435×16	○	○	○	有	上坑と複合	加曾利 E IV、V	町内遺跡群VI			
3号	45%	(円形)	410×不明×30		○	有	北半未掘	加曾利 E II 新	町内遺跡群VI				
4号	15%	不明			○	不明	○	擾乱著しい	加曾利 E II 中	町内遺跡群IV			
5号	45%	(円形)	565×?×33	○		有	東北部未掘	加曾利 E II 新	町内遺跡群IV				
6号	95%	円形	596×542×45	○	②	②	有・ 埋設	○	抵張と建替各2	加曾利 E II 新相	町内遺跡群IV		
7号	70%	円形	不明×498×18	○	○	○	不明	東南部未まで削平	加曾利 E II 新相	町内遺跡群IV			
8号	70%	(円形)	580×?		○	○	不明	床面覗乱	加曾利 E I	調査会報告16集			
9号	50%	(不整円形)	(490×270)	未掘		有	○	10号に切られる	(加曾利 E I 新相)	調査会報告16集			
10号	50%	不明	(300×250)×50	未掘			○	9号を切る	曾利式Ⅲ	調査会報告16集			
11号	40%	(不整円形)	(490×?)×55	未掘			○	貼床	加曾利 E II	調査会報告16集			
12号	70%	(不整円形)	(570)×550×80	○			○		加曾利 E III	調査会報告16集			
13号	完掘	圓丸方形	343×370×13	○	○	○			加曾利 E I	調査会報告18集			
14号	完掘	円形	404×403×20	○				2本柱のみ	阿玉台II	調査会報告18集			
住居番号	調査率	平面形()は推定	規模	か			埋	抵	壁	溝	備考	時期	文献
				地床	埋設	石甌							
15号	完掘	円形	573×499×35			②					人口に張り出し有、17住を埋める	加曾利 E III	市内遺跡群3
16号	完掘	圓丸方形	338×337×25	②		○						加曾利 E II 新	市内遺跡群3
17号	完掘	圓丸長方形	684×525×70	②		○	有	○	抵張3.15住に切られる	加曾利 E I 新	市内遺跡群3		
18号	完掘	圓丸方形	608×600×90	○	△	○	○	○	石甌の可能性有、19住に切られる	加曾利 E I 新	市内遺跡群3		
19号	完掘	圓丸長方形	476×448×60	②		△			石甌の可能性有、18住を切る	加曾利 E II~III	市内遺跡群3		
20号	完掘	圓丸方形	473×483×28			○					人口近くに配石、伏状	加曾利 E II	市内遺跡群3
21号	40%	(圓丸)	?×?×10	○			○		○	20.24住より古い	加曾利 E I 新	市内遺跡群3	
22号	完掘	圓丸五角形	491×513×113	○					○		加曾利 E I 新	市内遺跡群3	
23号	25%	不明	?×?×21	②		△				石甌の可能性有、20住より古、24住より新	加曾利 E II	市内遺跡群3	
24号	10%	不明	?×?×55	未掘			○		○	20.24住より古、21住より新	加曾利 E	市内遺跡群3	
25号	完掘	不明	(500×400)×5	○		○						加曾利 E II 新	市内遺跡群3
26号	完掘	圓丸方形	585×486×31	○								加曾利 E III	市内遺跡群5



第97図 神明後遺跡遺構分布図（1/1,500）

第50表 神明後遺跡第33地点出土遺物観察表 (単位cm)

図版番号	掲載番号	遺構名	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
105図	1	井戸1	陶器・擂鉢	(32.2)	13.8	12.8	組み重ね成形。底部右回転糸切り後未調整。口縁と体部の境を指撫で / 榎目15本単位(4.5cm幅)を見込みから放射状、左回りに重ね、見込みも短く榎目を重ねる / 鉄釉にぶい赤褐色 / 見込みは磨り減り、口縁内側も細かく打ち欠く / 注No.1井2	瀬戸・美濃	18C第3四半期	1/2以上残存
	2	井戸2	焼締め陶器・擂鉢	—	—	—	組み重ね成形 / 榎目7本単位(2.3cm幅)を放射状、左回りに重ねる / ぶい褐色 / 砂粒(~6mm)極多量含む / 注No.2井2		近世	口縁部片
	3	井戸2	瓦	5.4	4.8	1.6	棟瓦の破片を円形に打ち欠く / 灰色 / 注No.2井1		近世~	
	4	土坑3	磁器・茶碗	(10.0)	3.5	5.1	輪轆成形 / コバルト染付け、型紙給付 / 注No.3D	瀬戸・美濃	1880年代~	1/2以上残存
	5	土坑3	磁器・蓋	(8.7)	(1.9)	—	輪轆成形 / コバルト染付け / 注No.3D	瀬戸・美濃	1870年代~	1/4以上残存
	6	土坑3	土製品・泥面子	2.6	2.3	0.6	型押成形 / 裏面に指頭圧痕。毘沙門天 / 橙色 / 砂粒少量含む / 注No.3D		1790年代~1890年代	一部欠
	7	土坑11	陶器・碗	—	3.5	—	輪轆成形 / 灰釉。高台無釉 / 灰白色 / 注No.11D	京都・信楽	19C	底部片
	8	土坑17	磁器・茶碗	7.8	3.6	4.6	輪轆成形 / 黒色と茶色の銅版絵付 / 注No.17D		1890年代~	口縁部一部欠
	9	土坑25	磁器・香炉	—	(7.0)	—	輪轆成形 / コバルト染付、クロム青磁。内面無釉 / 注No.25D	肥前	近代	1/4以下残存
	10	土坑26	石器・縱長剥片	5.43	2.38	0.92	重量9.67g。縱長剥片を素材とする。右側辺に使用痕有 / 注No.26D	頁岩	旧石器時代	完形
	11	P6	銅製品・薄板	2.3	1.3	0.1	梢円形の薄板の端が折れた状態で発見 / 注No.P6			
	12	溝1	磁器・合子蓋	(4.8)	—	(1.4)	型押成形 / 口縁内側無釉。矩形文に染付け / 注No.1M1	肥前	1650~1690年代	1/4以下残存
	13	溝1	磁器・水滴	2.6	6.0	4.0	上部と下部を型押成形後、合体 / 内面無釉、指頭圧痕。コバルト染付け / 注No.1Mカクラン	瀬戸・美濃	1870年代~	1/4以上残存
	14	溝1	ガラス製品 / 医療用薬瓶	1.5	3.1	7.3	型吹き成形(割型) / スクリュー栓用 / 無色・透明、気泡有り / 瓶型 / 注No.1Mカクラン		1920年代~	完形
	15	溝1	錢貨・銅貨	外径2.33	穿径0.65	0.10	重量1.75g 鍛造 / 「寛永通寶」新寛永 / 注No.1Mカクラン		1697~1781	完形
	16	溝2	磁器・茶碗	—	(3.5)	—	輪轆成形 / 染付け。二重網目文。高台二重圈線。高台撥付無釉 / くらわんか手 / 注No.2M2	肥前	1700年代~1800年代	底部片
	17	溝2	製鍊滓・炉内滓	6.6	10.2	4.8	重量156.5g スサ入炉壁がガラス状に溶融し、炉底の滓が付着したもの / 注No.2M3		古代	炉壁~炉底
	18	遺構外	磁器・小杯	(6.5)	3.0	4.2	輪轆成形 / コバルト染付と緑色の銅版絵付。傘と朝顔。高台撥付無釉 / 注No.1トレ1		1890年代~	1/2以上残存
	19	遺構外	磁器・茶碗	8.2	3.0	4.8	輪轆成形 / コバルト染付の型紙絵付。松竹梅。高台撥付無釉 / 注No.2トレ1		1880年代~	完形
	20	遺構外	磁器・湯飲み碗	5.1	3.5	5.8	輪轆成形 / コバルト染付の銅版絵付。桜、鶴。高台撥付無釉 / 注No.2トレ1		1890年代~	完形
	21	遺構外	石製品・板牌	11.4	26.6	2.5	注No.2トレ1	緑泥片岩	中世	1/4以下残存
	22	遺構外	ガラス製品 / 一般用薬瓶	2.3	3.4	9.0	型吹き成形(割型) / コルク栓用。角瓶 / 表「脳丸」「人物絵」、裏「山崎帝國堂」の陽刻。無色・透明、気泡有 / 注No.1トレ2Na1		1900~1920年代	完形

III 神明後遺跡第34地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年12月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央北に立地し、隣接地では集石や地下式坑、溝跡等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年4月30日から同年5月15日まで行った。幅約2mのトレーナーを5本、幅約1.5mのトレーナーを1本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、縄文時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認面まで40cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は原因者と発掘調査に係わる委託契約を締結した上で2008年5月16日から同年5月28日まで、ふじみ野市教育委員会が行ない、縄文時代の住居跡1軒、落とし穴1基、集石3基、中世以降の土坑、ピ

ットを検出した。

(市内遺跡群5「神明後遺跡第34地点の本調査」参照)

IV 神明後遺跡第35地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年6月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年8月1日に行なった。幅約1.5mのトレーナーを3本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、時期不明のピットを1基検出したが、その他に遺構・遺物は検出しなかつたため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。北側の斜面に向かって傾斜していき、70cm以上の盛土で造成されていた。確認面まで130cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

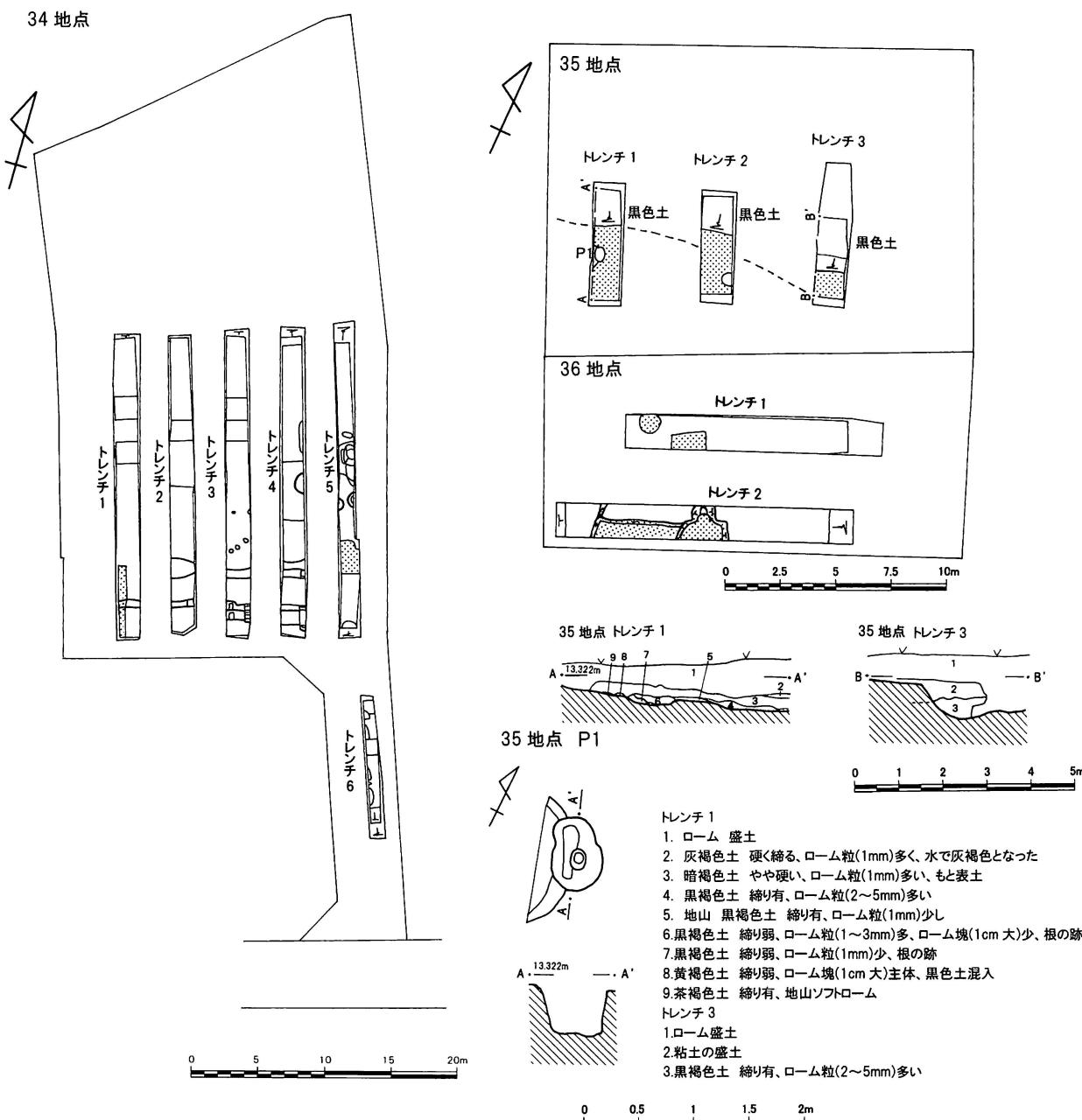
V 神明後遺跡第36地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年8月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年9月2日に行なった。幅約1.5

mのトレンチを2本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、黒褐色の遺構らしき範囲を検出したので調査したが、自然の壅みであった。その他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで60～100cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第106図 神明後遺跡第34～36地点遺構配置図 (1/500・1/300)、土層図 (1/150)、ピット (1/60)

神明後遺跡第 34 ~ 36 地点



神明後遺跡第 34 地点全景



神明後遺跡第 34 地点トレンチ 2



神明後遺跡第 34 地点トレンチ 3



神明後遺跡第 34 地点トレンチ 4



神明後遺跡第 35 地点トレンチ 1 ピット 1



神明後遺跡第 35 地点トレンチ 3



神明後遺跡第 36 地点トレンチ 1



神明後遺跡第 36 地点トレンチ 2

東久保遺跡第 66 地点	ふじみ野 2-19-4,19-5 集落跡 / 溝 4 条、溝状遺構 2 基	112453	35° 51' 48"	20080522	261	分譲住宅
		30-009	139° 30' 49"	20080611		越村篤
亀久保堀跡遺跡 第 31 地点	ふじみ野 2-15-4 集落跡 / 古代～中世の堀跡 1 条	112453	35° 51' 45"	20090206	240	分譲住宅
		30-006	139° 30' 53"	20090213		越村篤
駒林遺跡第 7 地点	駒林地区画整理事業地内 28 街区 5 画地 集落跡 / 時期不詳の溝跡 3 条	112453	35° 50' 00"	20090203	54	個人住宅建設
		25-013	139° 31' 41"	20090205		高崎直成
神明後遺跡第 33 地点	苗間 240-2 集落跡 / 時期不明の落とし穴 1 基、中世以降の溝 6 条、井戸 2 基、土坑 38 基、ピット 16 基・ 近世～近代陶磁器、ガラス製品 中世以降の屋敷跡の一部検出	112453	35° 51' 35"	20080425	209	個人住宅・ 宅地造成
		30-041	139° 31' 39"	20080516		高崎直成
神明後遺跡第 35 地点	苗間 293-6 集落跡 / ピット 1	112453	35° 51' 38"	20080801	26	個人住宅建設
		30-041	139° 31' 40"	20080801		高崎直成
東台遺跡第 51 地点	大井字東台 648-2 集落跡 / 繩文時代中期住居跡 6 軒、土坑 4 基・繩文土器、繩文時代石器 繩文時代中期環状集落の一部を検出	112453	35° 51' 01"	20090310	297	個人住宅建設
		30-024	139° 31' 28"	20090507		越村篤